

# 入学者のことば

## 入学者のことば

歯学科1年 植田 優太



私たち新入生が新潟大学歯学部に入學してから3か月が過ぎようとしています。初めての1人暮らしや大学での生活に慣れず、日々やるべきことに追われていたため、あっという間に時間が過ぎてしまったように感じます。最近では部活に入り多くの先輩方、先生方と出会い、人と関わることの楽しさと大切さをますます実感しています。

私は隣県の長野県出身です。新潟市は受験に関すること以外では訪れたこともありませんでした。新潟に来てみると自分が想像していた以上に都会で驚きました。特にバスの利便性の良さに驚きました。

私は1人暮らしを始めてから、自分の部屋の掃除や洗濯といったままで家族に頼っていたことをすべて自分でできるようになりました。1人暮らしをすることで、自分のことを自分で行う楽しさと大変さを感じるとともに、今まで自分のこと支えてくれた家への感謝の気持ちがわいてきます。

大学での生活では今年からカリキュラムの変更があり、より自由に学びたい科目を学ぶことができるものになりました。また新潟大学歯学科の特色でもある1年次の早期臨床実習も着々と進んでいます。歯科についての知識が何もない状態で臨床実習に臨むため、わからないことばかりです。しかし何もわからない状態だからこそ、より患者に近い立場で様々なことを体験でき、大きな刺激になります。この貴重な体験を今後の学校生活、将来に生かしていかなければならないと強く思います。

最後に新潟大学歯学科の1年は60人という他学

部に比べても人数の少ない学部です。少ない人数だからこそ、全員で団結しみんなで困難を乗り越えていくことが出来ると思います。お互い切磋琢磨しあいながら、そして助け合いながら大学生活を有意義なものにしていきたいです。

## 入学生の言葉

口腔生命福祉学科 廣川 光

新潟大学に入學して3か月が経とうとしています。私は社会人を経た後から短大に入學し歯科衛生士免許を得て、この春、口腔生命福祉学科3年次に編入しました。短大では、病院、歯科診療所、介護老人保健施設、小学校など様々な実習先での歯科的介入を経験しました。実習中に歯科的な立場からだけでなく、その人の生活全般を支援することができたらいいなと感じる機会がとても多くあり、医療福祉の包括ケアが重要であることを実感しました。歯科衛生士と社会福祉士のダブルライセンスを取得することにより、そのような支援ができるのではないかと思います。入學を決めました。

入學してみると、施設や実習環境、資料の充実さに驚かされました。改装工事が終わったタイミングでの入學でしたので、とても綺麗な教室で学ばせてもらっています。講義は高校や短大では経験することのなかった、問題を自分で見つけ、グループディスカッションを通し、解決していくPBL形式が多くあります。まだ慣れておらず、自分の意見を言うときには緊張したり、グループの意見をまとめられなかったり、課題はたくさんありますが少しずつ成長していき、社会に出た際に生かしたいと思っています。

3年次編入生は週に2回、五十嵐キャンパスでの講義があります。旭町キャンパスにはない、これぞキャンパスライフというものを経験できてうれしいです。五十嵐キャンパスは語学の支援が充

実していることが魅力的です。カリキュラムに少し余裕があり、いい機会なので苦手な英語に取り組もうと思い、FL-SALCの会話サークルに参加しています。短大時代は全く英語を勉強しませんでしたので、中学や高校で学んだ英語はすっかり忘れてしまいました。入学後、中学英語からやり直して、今TOEICに向けて勉強中です。

受動的に講義をただ受けるのではなく、自分から積極的に様々な活動に挑戦し、充実した大学生活を送りたいと考えています。



## 入学者のことは

口腔生命福祉学科1年 柳 沢 南



大学生活への希望と不安を抱えながら、この新潟大学歯学部に入學してから早くも3か月がたちました。入学当初は誰も知らない状況でこの知らない土地でひとり生活していくのはと

ても心細く不安でいっぱいでしたが、今ではこの大学生活にもほとんど慣れ、とても楽しく充実した毎日を送っています。

入学して早々にあった歯学部の赤塚での合宿では、グループ討論やお泊りを通して歯学科の人や話したことがなかった人とも話すことができ、仲良くなれたのでこの合宿があってよかったと思っています。口腔生命福祉学科はたった20人で女子だけなので友達ができるか不安でしたが、この人数のおかげですぐに覚えることができたし、話し

やすい子が多くてあっという間に仲良くなることができました。この20人でこれから4年間一緒に勉強していくのでもっと仲良くなればよいなと思っています。

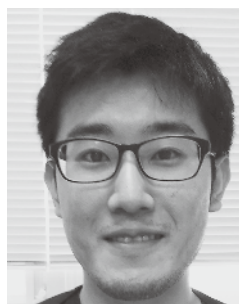
毎週金曜日にある早期臨床実習では、ユニフォームや白衣を着て病院に出て、患者付き添いや患者役、病院見学をしています。ユニフォームや白衣を着て病院内を歩くことで医療に関わるということを実感することができ、モチベーションを上げることが出来るのでとても良い経験だと思います。実習を通して患者側の立場に立って物事を見たり感じたりできるので、患者さんに対してどのように接するべきかなど色々なことを学ぶことが出来ました。

また、部活は歯学部バレー部に入りました。私は最初、バレー部に入るつもりはありませんでしたが、今では入ってよかったのかなと思っています。歯学部バレー部は人数が少ないですが、かわいくて優しかったり素敵な人たちがばかりでこの部活に入ったおかげで仲良くなれてとても嬉しいです。また、練習は厳しくないのでもつらくないし、やりたい練習を取り入れてくださるのでとても楽しいです。

1年生はまだ教養の授業が多いですが、2年からは専門的な授業になり、どんどんと忙しくなっていくと思います。なので、1年生の時しかできないことをたくさん経験して後で後悔しないような大学生活を送っていきたいと思います。

## 入学者の言葉

矯正歯科学分野 大 澤 知 朗



今年4月に新潟大学大学院医歯学総合研究科の矯正歯科学分野に入局致しました大澤知朗です。入局しすでに3ヶ月が経とうとしていますが、この3ヶ月間は新潟大学が出身校でなければ、研修施設でもない私にとっては、新潟での大学院生活はすべてが新鮮で、あっという間でした。最近になって少しずつですが、生活に慣れ始

め、充実した日々を過ごさせて頂いております。

私が大学院進学を決めたのは研修医の時です。

「大学院」今思うと学生時代から漠然と頭の片隅にあったような気がします。ただその時は、専門性を持った勉強がしたいという思いだけで、大学院へ進学して学ぶとまでは考えておりませんでした。むしろ開業医に勤めることを思い描いていたと思います。それが、研修医時代に大学院出身の先生方の、高い専門知識や技術を目の当たりにし、自分自身もしっかりと勉強し、そのような歯科医師になりたいと思い大学院進学を決意しました。

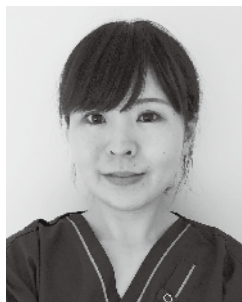
矯正学分野に進んだのは、学生の時から教科書に載っているような歯列が綺麗になっていくのを見るのが好きで、自分もそのような仕事をやりたいと思っていたこと、また顎変形症治療に興味があり学びたいと思ったためです。

入局してからは、自分の矯正の知識の足りなさや、矯正治療の難しさを日々痛感しておりますが、指導医や先生方のアシストをさせて頂きながら、1つ1つの症例や技術を丁寧に教えて頂き、日々勉強しております。また、分からないことがあればなんでも質問でき、どの先生も快く指導して下さるため学生実習の時以上に、楽しく矯正治療についての理解を深められております。

まだまだ若輩者の私で、今後大変なことがいろいろあると思いますが、それ以上に矯正歯科学を楽しみ、十分に学ばせて頂ける恵まれた環境にいることに感謝し、有意義で充実した大学院生活を過ごしたいと思います。

## 入学者の言葉

新潟大学小児歯科学分野 鈴木 絢子



私は、“小児歯科”の専門性について、大学生時代には全く気が付きませんでした。

しかし、縁あって昨年10月に小児歯科学分野の大学院に入学し、考えが一転しました。子供は日々成長を遂げているため、口腔内

は診るたびに変化し、その都度判断が迫られます。タイミングを逃せば、う蝕の進行や不正咬合を引き起こしてしまいます。

また、精神的にも発達していくため、成長に合わせた対応が必要となります。一度できたことも気分によってはできなくなったり、診療は上手にできても味がするものが苦手で嫌がったりと様々なキャラクターがあり、そこに気付けるようになるにも経験が必要となります。さらに、大学病院に紹介される子供たちは一癖も二癖もある子、難病を抱えているような子は珍しくありません。全身的な管理を考えながら治療・投薬を行うこと、全身麻酔が必要になるケースは日常的にあふれていて、小児歯科に来て全身麻酔のOpe室に頻繁に出入りするとは思ってもいませんでした。

小児歯科の外来は常に子どもたちの泣き声は聞こえてきますが、同じくらい笑い声もあふれています。どんなに嫌がって治療しても、笑顔で帰る子供たちをみるととてもやりがいがあり、そこで生まれた信頼関係は堅い絆で結ばれていると感じております。

また、研究に関しては小児の口腔習癖の1つである、いわゆる“お口ぽかん”を解剖学的に解明していく予定です。このテーマは臨床的な面と基礎的な面の両方を兼ねそろえており、いずれは今後の小児歯科に役立てるような研究になるよう努力していきたいと思います。

## 入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程

中川 雪人



この度、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に社会人入学を致しました中川雪人と申します。私は長岡市にある高齢者の通所介護施設（デイサービスセンター）で生活相談員として働いております。福祉の現場で仕事をしておりますが、高齢者にとって口腔の健康状態がとても大切なことや、現場に入っているだけでは学べないことも

あると考え、もう一度勉強をしたいと考えるようになりました。そういった中で、どこの大学がいかと考えた結果、医療（歯科）と福祉が同時に学べる口腔生命福祉学専攻を選びました。

入学してから3ヶ月が経ちました。同期の方々は、私を除いて口腔生命福祉学科を昨年卒業しています。そういった中で、一緒に講義を受けていると歯科分野の知識に差があり圧倒をされています。しかし、そういったことをプラスに考えて、わからないことは色々教えていただこうと考えております。また、講義などで知りえた情報や知識は現場の職員にも伝えていき、自分自身だけではなく、他職員の資質向上に繋げられるようにしていきたいです。

私の目標の1つに社会福祉法人の経営があります。まだまだ先の話ではありますが、実際にどのように経営しているかを研究することで目標達成への1歩とします。また、世間では一部の悪質な社会福祉法人による内部留保の私的流用や虐待などの問題で社会福祉法人全体のイメージが悪くなっている現状があります。その世間のイメージに対して私はこの研究を通して社会福祉法人のより良い在り方を表していきたいと思えます。

この2年という短い期間の中で、課題や研究に精一杯取り組みたいと考えております。また、社会人なので仕事にも支障をきたすことのないように取り組んでいきます。まだまだ始まったばかりで苦勞も多くありますが、1つ1つの事柄が自分のプラスになると信じて進んでいきます。

## 入学者のことは

口腔生命福祉学博士後期課程 中 田 悠



今年度から私は口腔生命福祉学博士後期課程に社会人大学院生として入学しました。平成21年3月に口腔生命福祉学科の2期生として卒業後、そのまま修士課程へ進学しましたが、2年間の修士課程修了後は経済的理由などから後期課程へは進学しませんでした。この度博士後期課程

へ入学することを決めたのは、現在勤務している環境が大きく影響しています。

現在、私は愛知県の病床数1,435床を有する藤田保健衛生大学病院で歯科衛生士として勤務しています。大学の附属病院ではありますが、歯学部がないため病院に入院するのは、ほとんどが医科の患者さんです。そのため歯科は医師から依頼のあった入院患者さんの口腔ケアや、全身麻酔手術を受けられる患者さんに対して周術期管理を行っています。特に近年は、手術件数が増加傾向にあるため周術期管理の依頼が多くなり、周術期の患者さんを診る機会が増えています。そういった患者さんと関わる機会が多いことから、周術期管理をテーマにした研究を行いたいと考えるようになりました。

現在の勤務先では歯科医師はもちろんのこと、歯科衛生士も同様に臨床と研究を両立していくことが求められています。そのため、これまで周術期患者や摂食嚥下訓練についての学会発表を行ってきました。また、看護師と協同した研究も実施しています。このような際、研究の進め方など修士課程で学んだ基礎を活かして日々なんとか乗り越えているのが現状です。今後とも研究への取り組みが必須であり、更に研究スキルを発展させていきたいと考え、博士後期課程に進学することを決めました。

これまで新潟大学歯学部の先生がたには非常にお世話になっていること、旧知の先生がたくさんいらっやって安心できること、帰省や友人に会うため新潟に行く機会が多いことなども、新潟大学への進学を決めた理由です。

これから3年間、社会人大学院生として仕事と勉強を共に頑張りたいと思います。ご指導の程どうぞよろしくお願い致します。